



梅澤 良介 (うめざわ りょうすけ)

地圏資源環境研究部門 物理探査研究グループ

地圏資源環境研究部門 物理探査研究グループの梅澤良介です。姫路出身で、大学から大阪で過ごし、今年の3月に大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻の博士課程を修了して、初の関東 つくばへとやってまいりました。

大学では、岩石コアや多孔質ガラスを用いて水飽和率を変化させた試料の電気伝導測定を行うことで、表面伝導メカニズムの解明、多孔質物質の電気伝導モデルの構築を目標に研究を行ってきました。今後は、これまでの研究を活かし不飽和帯をはじめ比抵抗構造の定量的解釈の高精度化につなげていきたいと思ひます。これまで室内実験を中心に研究を行ってきましたが、これからはフィールドにたくさん出ていくことになるので、研究の視野が広がると思うと大変楽しみです。初めてのことばかりで、わからないことが多く戸惑いもあると思ひますが、いろいろなことに挑戦し、経験を積んでいきたいと思ひます。そして、積み上げた技術や経験を伝えていけたらいいなと思ひています。どうぞよろしくお願ひいたします。



山下 幹也 (やました みきや)

地質情報研究門 資源テクトニクス研究グループ

平成31(2019)年4月1日より、地質情報研究門資源テクトニクス研究グループに配属になりました、山下幹也と申します。石川県羽咋市出身で秋田大学鉱山学部において物理探査を学び、総合研究大学院大学にて南極観測に参加し、大陸氷床で取得した地震探査データを元に学位を取得しました。その後はフィールドを海域に移し地震研、海洋研究開発機構でポスドク、技術研究員、研究員とマルチチャンネル反射法探査を用いた構造研究を14年間行ってきました。

海洋研究開発機構での主な研究としてはIODP掘削の事前調査データを用いた稠密な構造解析を伊豆小笠原で実施し、海底カルデラ火山の詳細な速度構造や断層分布を明らかにしました。一昨年はハワイ沖でマントル掘削に向けた初めての調査を行いました。また地震発生帯研究としては南海トラフ軸における高分解能イメージングによるプロトスラストの検出、その他として海洋中の微細構造イメージングに取り組んだSeismic Oceanographyなどがあります。

今後も構造研究を通して海底資源に関する新しい研究テーマの創出と構造研究者の養成に取り組んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

